

ごあいさつ

首都圏で農学系学部を有する私立五大学(明治・東京農業・日本・玉川・東海)は、産学官連携によるアグリビジネス創出を目指して、2005年度より毎年「アグリビジネスフォーラム」を開催して参りました。

第11回目となる今年も、「アグリビジネス創出フェア2015」に五大学で共同出展し、より多くの方々に、各大学の農学研究成果をご覧いただきたいと考えております。

「食と農」に対する多方面からの関心が高まっており、大学に対しても地域との連携を通じた研究成果の還元や、地域活性化への貢献が求められていることから、我々は今回のキーワードを「地域」としました。

研究成果の紹介と共にセミナーを開催し、今、大学が地域とどのように関わりを持ち、食や農業についてどのような取り組みを行っているかをご紹介します。

新たなシーズの発見、情報交換、交流の場として、お気軽にご来場いただきますようご案内申し上げます。

東京ビッグサイトへのアクセス



りんかい線

「大崎駅」・「新木場駅」から国際展示場駅下車。徒歩約7分。

ゆりかもめ

「新橋駅」・「豊洲駅」から「国際展示場正門駅」下車。徒歩3分。

都営バス






「東京駅」八重洲口から東16系統「東京ビッグサイト」(約40分)。
「浜松町駅」から虹01系統「東京ビッグサイト」「国際展示場」(約40分)。

水上バス

「浜松町駅」下車、水上バス「日の出棧橋」から、「有明客船ターミナル」(約25分)。下船。徒歩約2分。

車

首都高速湾岸線「有明出口」から約5分、11号台場船「台場出口」から約5分。

	明治大学 (幹事校)	〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 研究推進部 生田研究知財事務室 TEL:044-934-7639 FAX:044-934-7917
	東京農業大学	〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 総合研究所 TEL:03-5477-2532 FAX:03-5477-2634
	日本大学	〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 研究推進部 知財課 TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328
	玉川大学	〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 学術研究所 知的財産本部 TEL:042-739-8054 FAX:042-739-8663
	東海大学	〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1 産学官連携センター 産学官連携推進課 TEL:0463-59-4364 FAX:0463-58-1812

第11回 未来の食と農を支える 首都圏農学系私立五大学

アグリ ビジネス フォーラム



2015 11.18(水) ▶ 20(金)
10:00 ▶ 17:00

会場 国際展示場(東京ビッグサイト)東6ホール
アグリビジネス創出フェア2015会場内

第11回アグリビジネスフォーラム

- 日時:2015年11月18日(水)~20日(金)
10:00~17:00
- 会場:東京ビッグサイト 東6ホール
アグリビジネス創出フェア2015内
- 小間番号:地11~地16



アグリビジネスフォーラムの歩み

【参加大学】

明治大学、東京農業大学、日本大学、玉川大学、東海大学

第1回 アグリビジネスフォーラム

開催日 2006年3月8日(水)

場所 明治大学駿河台校舎アカデミーコモン

基調講演「21世紀はアグリビジネスの時代—食と健康からのアプローチ—」東京農業大学 教授 小泉武夫 氏

第2回 アグリビジネスフォーラム

開催日 2006年10月13日(金)

場所 東京農業大学百周年記念講堂

基調講演「植物共生の現代的活用」東京農業大学 教授 湯浅浩史 氏

<第3回から東海大学が参加>

第3回 アグリビジネスフォーラム

開催日 2007年11月14日(水)

場所 日本大学会館2階大講堂

基調講演「これからの機能性食品の科学を展望する」日本大学 教授 上野川修一 氏

第4回 アグリビジネスフォーラム

開催日 2008年11月19日(水)

場所 玉川大学玉川学園講堂

基調講演「食育のすすめ～大切なものを失った日本人～」服部栄養 専門学校校長 東京農業大学 客員教授 服部幸應 氏

第5回 アグリビジネスフォーラム

開催日 2009年10月14日(水)

場所 東海大学校友会館(霞が関ビル35階)

基調講演「農業の潜在力の発揮に向けて」農林水産省農林水産産技術 会議事務局 研究総務官 藤本潔 氏

<第6回から首都圏農学系私立五大学として
“アグリビジネス創出フェア”に共同出展>

開催テーマ:

「未来の食と農を支える首都圏農学系私立五大学」

第6回 アグリビジネスフォーラム

開催日:2010年11月24日(水)~26日(金)

第7回 アグリビジネスフォーラム

開催日:2011年11月30日(水)~12月2日(金)

第8回 アグリビジネスフォーラム

開催日:2012年11月14日(水)~16日(金)

第9回 アグリビジネスフォーラム

開催日:2013年10月23日(水)~25日(金)

第10回 アグリビジネスフォーラム

開催日:2014年11月12日(水)~14日(金)

基調講演:「機能性食品を科学する」東海大学 教授 石井 直明 氏

アグリビジネスフォーラムセミナー

～研究・プレゼンテーション～

日時:2015年11月18日(水)

時間:14:00~16:00

会場:セミナールームC



「ヤーコンを素材とした阿蘇地域連携による ブランドの創造」

東海大学 農学部 応用植物科学科 准教授 松田 靖

ヤーコンは、フラクトオリゴ糖を蓄積し、ポリフェノールを高濃度に含有することから、機能性食材として近年注目を集めています。

東海大学では阿蘇地域でヤーコンの試験栽培を行い、生産農家とともに栽培法の比較・育種を行いながら機能性成分の分析や、大学で確立したレシピを用いてシロップを地元企業にて製造しています。

このように、ヤーコンの栽培から加工までを一貫して行い、地域連携によるブランドの創造を目指しています。

14:10

小間番号:地 1 5



「ミツバチとお花畑で農地を守る」

玉川大学 学術研究所
ミツバチ科学研究センター 教授 中村 純

ミツバチは巣の周囲2kmの範囲の花から花粉と花蜜を集めて利用します。昨今の世界的なミツバチの不調は、その花が減ったことが最大の原因です。

したがって、耕作放棄地をお花畑化して、ミツバチに資源を提供することは、養蜂産業にとっては有益です。

しかし、それにとどまらず、景観美化、鳥獣害の軽減、農地の原野化の進行抑制、あるいはマメ科植物であれば再生農地作りなど、地域の農業振興への貢献も期待されます。

14:30

小間番号:地 1 1



「早採りコンブやニジマス等地域素材を 利用した新規食品開発」

日本大学 生物資源科学部 食品生命学科 専任講師 陶 慧

日本大学生物資源科学部では、食品イノベーションに関するプロジェクトとして、研究室や学科の枠を越えて、研究者各自が保有する各種技術やシーズを用いて食品加工や製造技術、未利用資源の有効利用や新規資源の発掘、さらに食の安全性や機能性に関する研究を行っています。

また、産学連携や人材育成にも力を注ぎ、教育や社会貢献も含めた活動を展開しています。

今回は(1)水産物の高度有効利用、(2)新規農産物や地域特産物の加工技術、(3)機能性を付与した新食品の創製、などを紹介し、素材開発から新規製品までの流れを紹介します。

14:50

小間番号:地 1 2



「大学連携と地域づくり」

東京農業大学 地域環境科学部
森林総合科学科 教授 宮林 茂幸

東京農業大学は、創立124年の蓄積を活かし、全国24の県市町村自治体と連携協定を結んで、産官学連携による地域振興に取り組んでいます。その概要を報告いたします。

- ①地域資源の有効活用:地域の「技」と「知恵」について
- ②住民講師による地域で行っている体験学習のカリキュラム
- ③都市と農山村地域が行っている交流事業の内容(両者によるふるさとづくり)
- ④地域資源管理システムのあり方
- ⑤地域創生の方向と地域づくりの進め方などを紹介します。

15:10

小間番号:地 1 3



「都市近郊型農業としての植物工場研究」

明治大学 研究・知財戦略機構 特任講師 池浦 博美
農学部 農学科 准教授 池田 敬

明治大学植物工場基盤技術研究センターは、「都市近郊型農業としての植物工場研究」「産業化を目的とした植物工場研究」を行っています。

神奈川県始め関東近辺地域で植物工場を考えている事業者にとって、どういった戦略で植物工場を運営していくかを研究しています。今回は特徴ある生産物の生産のためにはどういった考え方が必要か、概略をお話します。

15:30

小間番号:地 1 4